

第2回 深沢地域整備事業のまちづくり意見交換会 会議録		
日 時	平成27年9月28日（月） 午後6時から8時まで	
開 催 場 所	鎌倉青果地方卸売市場会議室	
出席者	参加者 (22名)	入江 麻理子、大木 淳、岡本 正博、廣川 隆純、福澤 健次、石渡 道子、橘川 活美、 佐々木 文彦、佐藤 知道、田中 雄二、横田 由佳、大塚 達男、高野 恭典、 安東 朋枝、飯田 佳雪、小團扇 恵一、重久 正輝、矢澤 基一、漆原 晃、 小宮 健一、成瀬 新吾（代理：芹澤）、安田 秀正（敬称省略）
	コーディネーター	志村 直愛（東北芸術工科大学教授）
	事務局	○鎌倉市 ・拠点整備部：渡辺（部長）、下平（次長） ・深沢地域整備課：斎藤（課長）、杉浦（課長補佐）、武部（係長）、大江（主事）、 小林（主事）、大橋 ・都市計画課：関沢（課長） ○コンサルタント ・計画技術研究所：須永氏、加藤氏、岡村氏、阿部氏 ・UR リンケージ：馬淵氏
	欠 席 者	5名
傍 聴 者	5名	
配 布 資 料	・第2回プログラム ・資料1-1. 洲崎陣出の杜の会 意見書 ・資料1-2. 陳情者とのこれまでの経緯について ・資料1-3. 陳情者との意見交換について ・資料1-4. 第1回意見交換会での意見への回答 ・資料2. 第2回意見交換会の検討素材 ・参考資料1-1. 第1回 深沢地域整備事業のまちづくり意見交換会 会議録 ・参考資料1-2. 深沢地域整備事業のまちづくり意見交換会 第1回 会議要旨	
■会議要旨		
1. 開会（挨拶）		
鎌倉市拠点整備部の渡辺部長が挨拶を行った。		
2. 情報共有		
(1) 鎌倉市からの説明		
① 第1回深沢地域整備事業のまちづくり意見交換会において、「洲崎陣出の杜の会」が説明することに至った経緯に係る構成員とのやり取りの際、市が行った説明について同会から事実と異なるとの抗議文を受けたことから、改めて、資料1-2を使用し、市が同会で行った協議の経緯について説明を行った。		
・平成26年12月に、洲崎陣出の杜の会（陳情者）からの、「計画に広く市民からの意見を反映して欲しい」という趣旨の陳情が採択された。		
・これを受け、平成27年1月から7月までに全6回同会との意見交換を行い、同会の考えを聞くとともに、市の考えも説明してきた。市としては、反映できるものは反映していくが、事業を成立させるためには、実現性も考慮する必要がある、できることとできないことを精査していきたいと回答していた。		
・また、その中で、陳情の趣旨を踏まえ、当初から同会からの意見だけを聞くのではなく、広く市民から意見をもらうための意見交換会を開催する方針も説明しており、そのことは同会		

も了承していた。同時に、意見交換会の構成員として考えているため、参加の打診も行っており、その時点では参加の意向があったと認識していた。

- ・しかし、同会との意見交換を続ける中で、両者の考えに隔たりがあり、それを埋めることが困難であると判断し、市から、両者の隔たりについては、意見交換会に参加して説明すれば良いのではないかと提案を行ったが、同会は、意見交換会では同会の主張は伝わらないと判断し独自の活動をするということで、意見交換会へ参加しないことの連絡を受けた。
- ・そこで同会に対し、意見交換会の冒頭に同会の考えを説明してはどうかと確認したところ、当初は難しいという回答であったが、後日検討した結果、説明することになったとの回答があったため、第1回の意見交換会の冒頭に説明することになった。
- ・以上、市から洲崎陣出の会に対して意見交換会での説明を求めた事実があり、誤解を招くような表現となってしまったことについては謝罪する。

②第1回意見交換会での意見の中で既に検討している事項について、説明を行った。

3. 意見交換会

(1) 情報提供

①第2回意見交換会の検討素材の説明

第2回意見交換会のテーマである「ウェルネス」、「健康」をテーマとしたまちのあり方に関する検討素材として、市のイメージ、市民等のイメージ、事例、参考データ等について説明を行った。

②コーディネーターのコメント

意見交換会の進め方、ポイント等について、コーディネーターの志村教授がコメントした。

コーディネーター： 昨日、鎌倉市の市民活動団体と市による相互提案協働事業の公開プレゼンテーションがあった。審査委員長を務めているが、市民活動団体が行政と一緒に事業を行うことについて手を挙げる団体が増えてきており、なかなか勇ましい。また、本日の午前中は、横須賀・三浦のパートナーシップミーティングに参加し、企業、NPO、大学、市民、行政がどのように一緒にまちづくりを進めていけば良いかの議論をしていた。この2つに共通しているのは、既に時代は行政が全てを決めてどんどん進めるということではなく、市民がきちんと意見を出し、一緒に意見を並べながら精査をして、良いものをつくっていくという時代に突入していることは間違いない。そういうことを皆さんも体感して、自信を持って良い意見をどんどん出して、まちづくりを進めていくという方向性になっていただければと思う。

本日は、ウェルネス、健康をテーマとしたまちのあり方を議論していただくことになるが、ウェルネス、健康についてはまだ曖昧な部分もあるので、この曖昧さを市民の皆さんと一緒に議論して、ある方向性が見えるもの、具体性のあるものに仕立てていくことが本日の大事な作業になっている。

大事なポイントは3つある。1つ目は、ハードもソフトもあるということ。どうしても「オリンピックに使える競技場が欲しい」等のハードに関する意見が出てくるのだが、それだけではなく、「ウェルネスって何だろう」と考えたときに、例えば、高齢者が健康を身近に感じられるようなまち等という、ハードを考えるための条件となるソフトを考えることが重要である。ウェルネス、健康を今の時代にどのように捉え、再開発の中に落とし込んでいけば良いか。計画・デザインをする人間に対して、皆さんから難しい出題をしていただいても良いかと思う。こういう考え方が大事である、こういう考え方をここに投入すべきである等の意見を一緒にいただけると良いかと思う。ハードとソフトの両面で考えていただきたい。

2 つ目は、時間の流れを考え、将来をきちんと見据えることが重要である。ウェルネスというテーマは平成 8 年に登場しており、もう 20 年が経過しようとしている。当時の発想から時代は変化しているので、今の時代に相応しいもの、また、これから将来このまちができる 10 年、20 年先にこの再開発されたまちがどのように使われるのかを見据えて考えることが重要である。この先どうなるかを考えて、色々な世代のことを考えていただきたい。高齢者の方が今の我々の生活を考えることもあるが、働き盛りの世代や子育て世代、子ども達、孫達が将来住み続けたいくなるようなウェルネス、健康を考えることもあるのではないかと。時間の流れを幅広く捉えて、様々な可能性を探っていただきたい。

3 つ目は、エリアを広く捉えていただくことが必要である。資料 2 の検討素材に、スポーツ施設の再配置計画の図面があるが、大きな運動施設が深沢に集約されることになっている。この再開発は、もはや深沢の人達だけのものではなく、鎌倉市全体の期待が寄せられている場所であり、みんなのためのまち開きである。それどころか、JR の新駅ができれば、藤沢方面や横浜方面、東京からも人が来るかもしれない。そういう場所になるためには、どのようなウェルネス、健康にまつわる施設が必要なのかを考える。当然、主役である深沢の皆さんのウェルネスでもあるが、全市民のウェルネスでもあり、藤沢や横浜、東京のウェルネスまで考えられる新しいまちなのかどうか。狭いエリアから広いエリアまで、スケールを替えて、色々な想像をしながら考えていただくと、きっと皆が喜び、歓迎する新しいまちになっていくのではないかと思う。

この辺りを是非考えていただいて、幅広く色々な意見を出していただければと思う。

(2) 意見交換会

4 つのグループに分かれ、ウェルネス、健康をテーマとしたまちのあり方について、意見交換を行った。（会議要旨は、別紙のとおり）

(3) 発表

各グループの代表者が、検討概要について発表した。

①1 班（発表者：福澤氏）

- ・ 20 年前からウェルネスが出ているが、掛け声を掛けてまちをつくるというのはいかがか。またテーマをウェルネスに絞って良いかという話が出た。
- ・ 高齢者を元気にするまち、商業拠点、食の拠点、大学、子育てしやすい環境等という話が色々出た。例えば、商業施設は、昔ながらの GMS（総合スーパー）から辻堂のテラスモールのようなものに色々と変化しているが、それも何年持つか。鎌倉の深沢ならではの商業はどのようにすれば良いかについては、もう少し研究しないと何も決まらない。大学にしても同様である。住宅も、マンションを適当な値段で販売しやすいものを計画することになるが、それが本当に将来このまちに相応しいのかどうか。子育て向けの住宅地にするなど検討事項がまだまだある中で、ウェルネスに絞って議論するのもどうかという雰囲気があった。
- ・ また、事業スキームについて、土地区画整理事業として開発を行う場合には土地の価値が向上する話が原動力、エンジンとなって物事がうまくいくのだが、洲崎陣出の杜の会は低密度のまちを求めているので、その辺りの整合性が一番難しいところである。
- ・ 個人的には、今後、具体的な例を挙げながら議論すると良いのではないかと感じている。

②2 班（発表者：芹澤氏）

- ・ ウェルネスの概念を明確にすべきである。単にスポーツ施設や福祉施設ということではなく、生き

甲斐ややりがい等を目指したまちにすることが必要である。

- ・老人福祉施設を閉じ込め型にせず、保育園と併設して、高齢者と子どもが交流できるようにする。
- ・高齢者向けの住宅と、周辺に介護施設を整備し、地域住民の働く場もある、職住近接のまちとする。
- ・ジョギングコースを整備して、汗をかいた後、温浴施設に入れるようにする。
- ・大学の誘致は、今後高校生人口が減るので、鎌倉ならではの国際的な大学とする。留学生を受け入れ、例えば、東南アジアの人達が日本で介護の資格を取れるようにする。
- ・大学だけではなく、学生寮も整備する。近隣の大学生も呼び込めるようにする。
- ・文化・産業施設としては、サントリー等の健康食品の研究所を誘致する。また、鎌倉野菜を販売する道の駅を整備する。
- ・公園は、バーベキューができるようにして、子ども達が楽しめるような場所にする。

③3 班（発表者：大木氏）

- ・土地利用計画（案）はあるが、具体的な施設の案は示されていない中で、（大規模地権者である）JR がどのような意向を持っているかが気になる。
- ・計画人口約 3,000 人について、どのような属性の人が入ってくるのか。住宅の値段によって全く変わってくる。高額所得者なのか、近隣に就業するサラリーマンなのか、退職した人なのかによって、ウェルネスや健康の考え方も全く変わってくる。また、ウェルネス以前の問題として、鎌倉で住むことのブランド化が、深沢でどこまでできるかが問われる。
- ・運動施設や広場の整備に際しては、最低限、防災の観点を入れることが必要である。また、スポーツ施設は、できれば国体クラスの競技ができるような、それなりの施設を整備して欲しい。
- ・教育施設は、大学誘致の話もあるが、中高一貫校のように知を蓄積できるような教育施設であって欲しい。図書館も欲しい。また、鎌倉である以上、歴史施設も大事である。
- ・ウォーキングコースや周辺地域からのアクセスを考慮した自転車空間の整備、自動車交通の整理が必要である。

④4 班（発表者：大塚氏）

- ・基本的な概念として、運動、栄養管理が非常に重要であり、その結果、健康になる。健康診断でチェックし、問題がある場合には、指導を行い、勉強して、実践して、健康になる。そのようなウェルネスサイクルがあって、人間の健康は維持される。
- ・そこで、核施設として、病気にならないように、市民が健康づくりに関して相談したり、学習したりする機能や市民に健康づくりを指導する機能を持つ健康増進センターを整備する。それを中核としてプール、体育館、運動場、ウォーキング等の体を動かす施設があり、医師、栄養士、スポーツ指導者、トップアスリート等が総合的に指導する。
- ・そこには産業・ビジネスの観点が必要である。例えば、ウェアラブル端末を使った脈拍測定の企業等を誘致することができれば良い。
- ・さらに、スポーツやウォーキングの後のスーパー銭湯も必要である。

(4) コーディネーターのコメント

意見交換会での検討内容について、コーディネーターの志村教授がコメントした。

コーディネーター： ウェルネスをそのままテーマとして挙げると少し安っぽくなってしまいますので、概念やあり様をきちんと議論した方が良いということは、各班に共通していることだと思う。一方で、「健康に暮らしたい」、「高齢者が安心して暮らせる」というような健康に関わる夢、理想のようなものが色々な形で出ていたと感じた。「こうありたい」「こうあるべきだ」という感覚で夢が描けているような気がする。そういう議論であれば、全市民が「それはいいね」と思える可能性はとても高いと思う。

また、楽しそうな感じが出ているのも嬉しく思った。健康のためにスポーツしたり、ジョギングをしたりということはあるが、バーベキューができたり、道の駅や温泉があったりというのは、「それなら行ってみたいな」と思える楽しさが各班で出ていた。

立地性を考えたり、「どんな人が入るのか、どんな生活の形になるのかで決まってくる」という非常に冷静、客観的な視点での指摘があるのも良かった。市としてはどうしても急いで決めなければならないという側面はあるのだが、一方で、「きちんと戦略を考えなければならない」という話も非常にするどい指摘である。また、アジアに向けた国際的な視点や看護大学の可能性が低下しているという話は、今の現実と少し先を見越したことを考えて欲しいという議論のポイントにきちんと答えていただいている。また、最初に示した議題について、満遍なく答えが出てきているように思う。これを整理して、次に具体的な形や方向性について、第3回以降に繋げていければと思う。鎌倉の市民の皆さんとワークショップをやると俄然質が高い。

ウェルネス、健康というのは、人間として生きている以上、必ず必要な発想であると思うので、次の回までに、「私の日々はウェルネスかなあ」と、家族からの意見を聞いてみるなどして、ウェルネスや健康の意見を上げてみていただきたい。

4. 閉会

事務局より次回の開催について説明を行い、拠点整備部の下平次長から閉会の挨拶を行った。

(以 上)

付 帯 事 項	
---------	--